

特別訪問記

コロナ禍は紙のリサイクルにも…

何号か前にこの欄で取り上げた「SDGs」。実は、その趣旨にピッタリなのが「一度使われた紙＝古紙」を紙の原料として再利用する、つまり「紙のリサイクル」です。昨今のSDGsという言葉が生まれる前から、私たちの日常生活では当たり前になっています。

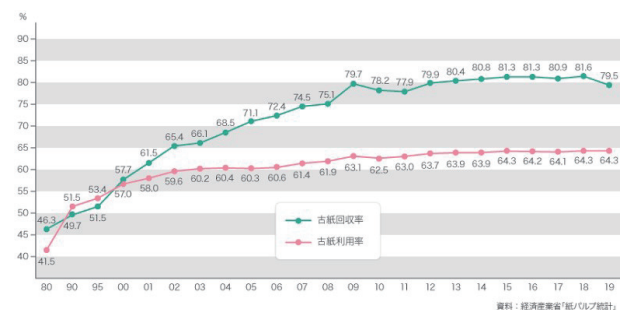
我が国の「古紙利用率」は、1990年代には50%程度でしたが、日本製紙連合会による6次にわたる年次目標の策定やPR活動などもあり、今では70%近い水準に達しています。また、国内のさまざまな地域や団体で行われている、古新聞や段ボールなどの回収実績が基になる「古紙回収率」はさらに高く、約85%にも達しており、世界でもトップクラスといえます。

ところが、全世界で人や物の流れに大きな影響を及ぼしている新型コロナウイルスの流行は、これまで順調だったこの古紙の回収やリサイクルの流れにも、水を差す状況となっています。

米国国立アレルギー感染症研究所の研究者や、香港大学の研究チームが発表した研究によると、「新型コロナウイルスがその感染力を保ち続ける時間」は「コピー用紙や印刷物などの表面では3時間、段ボールやパッケージなどの板紙の表面では24時間」というものでした。この数字は、マスメディアやSNSを通じて瞬く間に世界中に伝わりました。これにより、古紙の回収活動に影響が出るのでは、と心配する声も上がっています。これまでリサイクルに出されていた貴重な紙資源類の一部が可燃ごみとして扱われたり、また医療機関などでは医療ごみとして出されたりする割合が増えている、というのです。

新型コロナウイルスについては、ワクチンや一部では治療薬もすでに実用化されているものの、次々と生まれる新たな変異株ウイルスによる感染拡大、発生源をはじめとして未知の部分もいまだに多く、残念ながらその収束の目途は立っていません。大切なのは、手洗いをはじめとする基本的な感染予防対策です。必要以上の不安にかられて、私たちがこれまで長年にわたって育んできたリサイクルの流れを止めることがあってはなりません。

前述の研究者たちも「この研究発表は、日常生活の中で感染源に触れたことにより、必ず感染するということを表したのではない」と付け加えています。この新型コロナウイルスに関しては、この他にも誤った情報や誤解によって、さまざまな問題が起きています。デマや噂に惑わされず、正しい情報の入手と冷静な判断を心掛けたいものです。

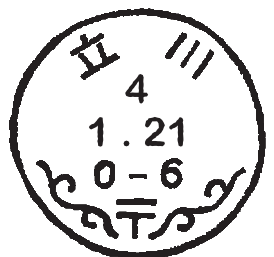
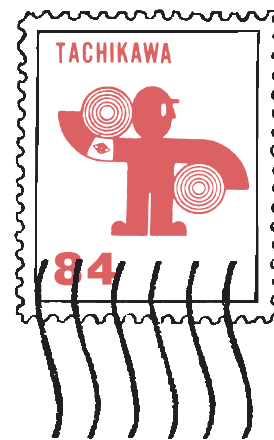


『紙』のひとり言。

自宅でも街中でも、「紙」という文字を見聞きすれば自然と注目がいくものだが、人名や地名に使われることは稀なので、皆さんに紹介しようと思う。

初めて耳にした時からずっと気になっていた「犬山紙子」さん。肩書きはイラストエッセイスト、コラムニスト、タレントなどと紹介されることが多い彼女のお名前の由来が知りたくてSNSなどで調

べたものの(本名は非公表)、残念ながらその答えにはたどり着けなかった。かろうじて得られた情報は、昨今ホームセンター等で人気の、リーズナブルな家電や生活用品でお馴染みの企業「I」の社長の姪御さんということだけ。答えにたどり着けず残念だったが、「紙子」というお名前が世間に広く知られ、嬉しい限りである。



雷鳥コート
A版 46.5kg
を使用しています。



発行/株式会社 立川紙業 〒190-0022 立川市錦町4-5-26 / TEL: 042-527-6111(代)
FAX: 042-528-0080 / HP: www.kami.jp / MAIL: tp@kami.jp



明けましておめでとうございます。昨年はお得意様をはじめ、お取引のある皆様にはいろいろとお引き立てやご指導を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、日頃よりTP通信をご愛読いただきありがとうございます。おかげさまで創刊以来486号(40年5ヶ月)まで発行に至り、これもご支援の賜物と感謝しております。

2年ぶりに開催された経済界のトップが一堂に会する「新年祝賀会」での今年の景気予想について、ご存じの方もいらっしゃるかと思います(景気が良くなる場合はプラス1~5、景気が悪くなる場合はマイナス1~5)。ほとんどの一流企業経営トップは、プラス3~4と予想していました。力強い予想に勇気もらう反面、紙パ業界との温度差を感じました。

製紙業界では、原燃料費の高騰・物流費上昇・円安の進行・少子高齢化やIT化による構造的な需要減により、約3年ぶりの値上げを発表しました。印刷・情報用紙は日本製紙を皮切りに、大王製紙・三菱製紙・中越パルプ工業・北越コーポレーションなどが15%以上、段ボール原紙はレンゴーがキログラム当たり10円以上値上げを表明。唯一、発表していない王子製紙(2022年1月12日現在)がこれに追随するか、注目されます。

日本製紙連合会がまとめた2021年10月の国内出荷(速報)で、印刷・情報用紙は前年同月比4.4%減。緊急事態宣言解除後も小売店のチラシ類、オフィスでの紙需要は戻りませんでした。2020年実績の8割程度の水準が続いています。

脱炭素の世界的な流れに対して、製紙業界はポイラーでの石炭火力に頼っているメーカーが多く、

2050年に向けた重要課題・強力な対策(バイオマスエネルギー)に迫られ、利益には結びつかない設備投資は将来的なコスト負担増となります。また、家庭紙への構造転換(日本製紙・北越コーポレーション・中越パルプ工業が発表しましたが、3メーカーも家庭紙に参入して、それほど国内需要はあるのでしょうか?)を図ったメーカーもあります。固定費削減など、企業努力ではコスト上昇を吸収しきれず、安定供給が続けられない切迫感がうかがえる反面、メーカー間での格差が出始めているのも事実だと思います。いち早くバイオマスエネルギーに転化したメーカー、海外投資に成功したメーカーもあれば、失敗したメーカー、家庭紙段ボールにマシンを転化したメーカーなど、値上げの足並みが揃わないのも、メーカー間の格差が要因の一つではないでしょうか。

弊社としても、従来のサービス・販売方法で良いのか模索しながら、さまざまな紙関連商品(紙盆栽・紙ファイル・ペットカレンダー等)を発売しています。デジタル化が加速する現在、変化が必要なのは認めつつ、紙の質感や触らなければ分からないアナログ的な優位性をPRしていくことも大切だと考えています。

お客様におかれましても、厳しい環境下であることは重々認識しております。どんなことでも構いません、ご相談ください。一緒に考えていきたいと思っています。

新年早々、値上げ及び、紙パ業界の厳しい現況を述べましたが、地元に着した紙卸商として、お客様により一層のお役立ちできるよう、社員一同努めてまいります。

本年も、どうぞよろしくお願い申し上げます。

新年のご挨拶

常務取締役 山川 正徳

令和4年新春にあたり、謹んで新年のお慶び申し上げます。

お客様はじめ、メーカー、仕入先、金融機関、出入り業者の皆様には、日頃より大変お世話になり、ありがとうございます。

昨年は新型コロナウイルス感染症の影響が長期化し、年末には感染者が減少傾向となってきました。しかし、現在は再びオミクロン株の動きが懸念されます。感染対策には今後も万全を期していきたいと思っております。

東京オリンピック・パラリンピックも1年遅れで開催され、日本のメダルラッシュがコロナ禍で沈んだ気持ちを跳ね返してくれました。

ここ最近、SDGsという言葉を目にしない日はないくらい、各企業・団体がさまざまな施策を考え、フォーラムなどを行っています。当社でも脱プラスチックに取り組み、クリアファイルに代わる商品として、昨年より紙ファイルを生産し、提案しております。透明度は低いものの、紙ならではの味わいや風合い、色、厚さなどをお選びいただけます。紙ですので、そのままプリントをすることもできます。今後も、時代に合った商品を提案していきたいと思っております。

今年の干支は寅年です。壬寅といわれる年です。紐解いてみますと、壬寅は厳しい冬を越えて芽吹き始め、新しい成長の礎となるイメージです。良い年になるよう、切に願いたいものです。

社員一丸となり、お役に立てる紙屋を目指し努力してまいります。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

営業部長 荒川 直人

新年明けましておめでとうございます。令和4年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。昨年はお客様をはじめ、お取引のある皆様には大変お世話になりました。

ご挨拶が遅れましたが、今期より営業部長に任命されました。荒川直人と申します。未熟ではございますが、皆様どうぞよろしくお願い申し上げます。

私は、配送センターで出庫、断裁、配送経験を経て営業部に入り、入社して26年目を迎えました。

一昨年より続くコロナ禍での低迷に加え、ペーパーレス化も加速し、過去に経験したことのない厳しい状況が続いております。ですが、下を向いている暇はなく、紙商として変化のチャンスと考え、前を向いていく所存でございます。

弊社では、脱プラによりクリアファイルを紙媒体にシフトする商品として、昨年より紙ファイルを自社生産し、提案しております。今後もSDGsの流れは加速していくと考え、私ども紙屋に何ができるか考え、提案していきたいと思っております。

本年も皆様に少しでもお役に立てるよう、営業部一丸となって努めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

newwave部長 坂内 琢

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

昨年8月より新事業部・newwave部長に新任いたしました。坂内琢でございます。

すでに丸2年間続いております新型コロナウイルスによる人々の生活形態の変化、それに伴う一般印刷業界の変化に、紙卸業者として何ができるのか？お客様にどのようなことをご提供できるのか？紙を元にした商品にまだまだ可能性があるのではないかと念頭に立ち上がった部署です。

「newwave」(新しい波)は読んで字のごとくですが、紙卸商として紙素材を生かした商品や紙加工のお手伝いも含め、加工をさらに掘り下げてまいりたいと存じます。

「三多摩の立川にこのような会社があったのか！」と言われるレベルになれるよう精進してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

経理部長 千葉 康史

TP通信をご覧の皆様には、どちら様も清々しい新年をお迎えのことと、謹んでお慶び申し上げます。

さて私儀、昨夏より経理部門の責任者として、お客様、メーカー、仕入先、金融機関、取引業者の方々とやりとりさせていただいておりますが、よく話題に上るのが、弊社の創業以来60有余年の歩みについてです。

私たちの日常生活に欠くことのできない紙。その紙を通じて、東京の西を中心としたエリアのお客様に長らくご愛顧いただいた歴史の重みと、諸先輩方のご労苦にはいつも身の引き締まる想いです。

紙を取り巻く環境にも変化が見られる昨今ですが、どのような時代や環境下でも、常にお客様目線を忘れることなく、諸先輩方の歩んできたこの道を今年も歩んでまいります。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

配送センター配送部部長 須崎 順一

新年明けましておめでとうございます。令和4年の新春をお慶び申し上げます。

平素よりお客様をはじめ、関係業者の皆様にはご理解とご協力をいただきまして、厚くお礼申し上げます。

令和3年8月21日より弊社配送センター配送部の部長に就任しました。須崎順一です。

私は営業部に約20年在籍していました。営業で培った知識と経験を、今後は配送部で生かしていきたいと思っております。お客様にご迷惑をお掛けしないよう「正確で迅速な配送」を目指し、計画配送を実施していこうと思っております。

コロナ禍という厳しい環境の中、制約を受けながらの生活となりますが、一日も早く通常の生活に戻り、皆様と笑って過ごせる日が来ることを願って、新年のご挨拶とさせていただきます。